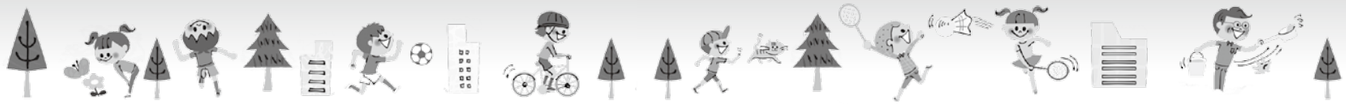



**3．具体的な活動実施内容とその成果**

①「水泳の日」総合イベント内での展示および啓発スタンプラリー

本年より全国各ブロックを巡回する水泳 4 団体共催「水泳の日」総合イベントを石川県金沢市にて開催。そのイベント内で例年同様ブースを設け委員会活動内容を掲示、同時に場内をエリアとし水泳連盟独自の標語を使用したスタンプラリーを開催。昨年同様多数の参加が有り、来場者約 1,500 名中、約 845 名が参加・ゴールした。現地学生委員会メンバーの協力によりご当地クイズとのセットで正解を求め、子供たちを中心に人気イベントであった。

②『紙削減プロジェクト』の継続実施・強化

連盟が特に力を注ぐ情報システム化を活用し、即時結果配信システム等の充実により更なる紙での情報配信の削減が強化された。また更に進化し競技会エントリーから記録賞等までの一貫したシステム構築により、あらゆる無駄な資源消費削減に一役買っている。

③競技会等における環境活動

監督者会議でのミニレクチャー、バナーの場内掲載役員集合写真を撮影、休憩時間を利用した場内ビジョンシステムでのアピールメッセージ露出、ゴミの削減を前提とし会場の所轄自治体ルールに則った分別と持ち帰りの実施。プログラムや月刊機関紙『水泳』へのポスター掲載。

**4．全体的な成果と今後の課題**

スタンプラリーは、水泳 4 団体で活動する 3 年目、初めての地方開催の「水泳の日」にも多くの愛好者が参加した。今後も日本各地を巡回開催する予定であり、来場を予想される水泳ファン層へ直接アピールする参加型イベントを更に各地で発展させたい。2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向け、持続可能でより身近な事から積み上げ、同時に将来のトップスイマーたちにもアピールしていきたい。

**5．JOC スポーツ環境専門部会員　齋藤 由紀**

スポーツ環境委員会は連盟内発足 13 年となり、昨年に引き続き『水泳の日』内で 3 度目のイベントを実施。基本的活動内容の理念は、小さなことの積み重ねで日常の延長上にあるという連盟の基本スタンスがかなり浸透し、一般観客参加型企画として成功した。環境活動の持続可能な輪を、特に若年層を含めた水泳愛好者にも広げる事を目指すものであるが、今後はより積極的にトップ選手にも協力を仰ぎ、次の発信力のあるプログラムも企画・具体化したい。

# （公財）日本サッカー協会

**1．実施概要**

公益財団法人日本サッカー協会（JFA）の「理念」、および「国連グローバル・コンパクト」における環境 3 原則（2009 年 7 月に署名）、そして、環境省「チャレンジ 25 キャンペーン」（2010 年 1 月に登録）に基づき活動を継続。

**2．平成 29 年度事業活動**

●主催／後援競技会等におけるゴミ分別や公共交通機関利用の啓発

● JFA グリーンプロジェクトの推進

●事務所（JFA ハウス）における環境への配慮（クールビズの実施等）

●倫理規範に基づき、コンプライアンス・SR 教育を実施

**3．具体的な活動実施内容とその成果**

① JFA 事務局内での代表的な活動

評議員会、理事会、常務理事会、研修会、通常会議について、プロジェクター・iPad・ノート PC 使用にて紙削減を実施。その他ウェブ会議の導入も行った。昨年同様、10 万枚規模の削減。

② JFA グリーンプロジェクト

引き続き、都道府県協会、サッカークラブ、自治体、学校、幼稚園・保育園を対象に芝生の苗の提供等を実施。

③電子登録証の導入

2015 年度より全登録カテゴリーにて電子登録サービスを導入し、2018 年度に完全電子登録証へ移行。

④教育・啓発

倫理規範に基づき、「JFA コンプライアンス・ハンドブック」を 2017 年 9 月に発行。16 遵守事項の中に「自然環境の保全」を位置づけ、今後の教育・啓発における準備について着手した。

⑤地域／Ｊリーグ

| | |
|---|---|
| ベガルタ仙台 | 「ユアテックスタジアム仙台を日本一きれいなスタジアムに！」という趣旨の下、着手した同活動も 15 年の実績に。継続して、ゴミの持ち帰り、ゴミの分別、オリジナルタンブラー利用等総合的な取り組みを実施中。 |
| 横浜 FC | ニッパツ三ツ沢球技場開催のホームゲームでは、毎回、削減した CO2 量を場内の大型映像装置にて削減量を放映、サポーターを巻き込んだエコ活動を展開中。 |
| 京都サンガ F.C. | 2012 年より、西京極スタジアムの電気使用量やゴミの焼却などによりホームゲームの開催で発生する CO2 を「DO YOU KYOTO ？クレジット」によってカーボンオフセットしている。 |
| ガンバ大阪 | ホームタウンから青少年健全育成や環境事業、街のにぎわい創りへのアシスト（協賛）事業として、「ガンバシスト for ECO」活動の一環として、地域清掃活動を実施。 |
| ファジアーノ岡山 | 岡山市環境事業課と協働し、10 月・11 月のシティライトスタジアムにて、リユースカップチャレンジ（リユースカップの導入）を実施。 |
| サンフレッチェ広島 | 「きれいな街は、人の心もきれいにする」をコンセプトに、平和都市・広島の街をきれいにする活動を定期的に実施。 |
| JFA | 高円宮杯 U-18 サッカーリーグ 2017 チャンピオシップ（埼玉スタジアム 2002）にて、オリンピック・パラ等経済界協議会との連携により、ゴミ袋を配り、ゴミ削減の啓発活動を実施。 |

**4．全体的な成果と今後の課題**

● JFA

2017 年 8 月開催のユニバーシアード夏季大会では、現地報道にて日本人選手団が自主的に地域清掃活動に取り組んだことが話題となった。継続してサッカー界として、環境負荷削減に努めることに加え、人材育成に努めたい。

●Ｊリーグ

Ｊ１からＪ３まで全国 50 クラブ以上の活動の中でも、地域商店会、幼稚園等の各種イベント・巡回に続き、スタジアム周辺等の清掃活動など環境活動が根付いている。

**5．JOC スポーツ環境専門部会員　玉利 聡一**

スマートフォンの契約台数が 9,000 万契約に到達すると言われている昨今、JFA では 2017 年に指導者の電子登録証移行を、2018 年度に審判、サッカー選手・監督の電子登録証移行を行い、完全に電子移行を果たします。継続的な取り組みに加え、こうした技術等の活用により、楽しく安心したサッカー界、環境・社会にも寄与するスポーツとして活動を継続します。

# （公財）全日本スキー連盟

**1．実施概要**

本連盟は冬季スポーツ競技団体として、地球温暖化による雪不足を切実な問題として捉え、13 年前より「I LOVE SNOW」キャンペーンを展開している。このキャンペーンでは、「自然に対する感謝を表す活動」、「雪を通じた感動体験の共有」、「親子の絆を深める機会の提供」、「健康や楽しみを得るための機会の提供」という四つのキーワードを掲げ、「スノースポーツ」、「アスリート」を通して環境保全に対する啓発活動を行っている。

**2．平成 29 年度事業活動**

- Fun to Share キャンペーン参加による低酸素社会への啓発活動
- 「I LOVE SNOW」キャンペーン

**3．具体的な活動実施内容とその成果**

① Fun to Share キャンペーン参加による低酸素社会への啓発活動

Fun to Share 宣言『スノースポーツを通して自然の大切さを伝えることで、低炭素社会へ。』を行い、環境保全に対する啓発活動を行った。

②「I LOVE SNOW」キャンペーン

雪の大切さとスノースポーツの楽しさを共有するアイテムとして、「I LOVE SNOW」グッズの販売を行った。販売グッズに間伐材を原料とした繊維で作製したトートバック等を追加した。

〈成果〉

上記の活動により、雪（自然環境）を守ることの大切さ、日常的に意識することが環境保全に繋がることを発信できた。

**4．全体的な成果と今後の課題**

「I LOVE SNOW」キャンペーンを展開し 13 年目を迎え、継続の重要性を感じているが、キャンペーンの飽和感が否めない状況である。今後は、この状況をベースにし、新たな手法にて啓発活動のステップアップを行いたい。

**5．JOC スポーツ環境専門部会員　荻原 健司**

近年の気象状況の特徴である、時季外れの気温の上昇や降雪地域の偏りは、スノースポーツにかかわる競技者や産業に多大な影響を与えている。また、今後、更に地球温暖化が加速していくことにより、スノースポーツが置かれる環境が厳しくなることは間違いない。世界中の次世代の人々がスノースポーツを楽しむことができるよう、世界に向けて環境保全をアピールしていかなければならない。冬季スポーツ競技団体として、今後も「雪とスノースポーツ」をキーワードに地球温暖化防止や環境保全に関するメッセージを発信したいと考えている。